



2024年 春号
発行元

大垣市立図書館

4・5・6月の
展示情報

「四季をうつす。展」

4月1日(月)
から
6月27日(木)

ふるさと古文書講座
学ぶ大垣講座

※講座情報について
は、広報おおがき、
図書館HPで
お知らせします。

大垣いま・むかし



昭和4年落成の図書館
(東外側町)



現在の図書館
(室本町)

「四季をうつす。展」

大垣市立図書館3階展示コーナーにて開催中



均斎筆「春富士」



小森青雨筆「梅花書屋」

日本には、四季があり、
天候や草花をはじめとした
自然は、それぞれの季節に
よって、その表情を変えま
す。古くから人々は、この
変化を風景や季節ごとに行
われる行事等、身の回りの
様々なものから感じ取っ
てきました。

移り変わる季節は、「梅
に驚」や「年中行事」と
いった画題(絵画のテーマ)
にも選ばれ、多くの画人た
ちによって山水画や花鳥画
等に描かれています。
今回の展示では、四季の
移ろいをテーマとし、季節
の風物詩や植物等が描かれ
た作品を紹介します。

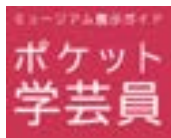


大垣市立図書館2階連絡通路

大垣の風景 コミニー

開催中

※ポケット学芸員をご利用
いただけます。詳細は右記QR
コードをご確認ください。



【開催場所】
大垣市立図書館3階
郷土資料室展示コーナー

【期間】

令和6年4月1日(月)
～6月27日(木)

午前9時～午後5時まで

【休館日】

毎週火曜日、

4月26日(金)

5月1日(水)、8日(水)、

31日(金)

3階郷土資料室 おすすめの三冊!

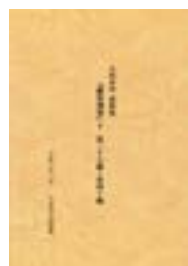
大垣市立図書館
『郷土資料目録』第43集
家分文書(早野家)



大垣市立図書館は、近
隣の市町村立図書館では
珍しく古文書や漢籍・古
典籍等の資料を所蔵して
います。これらは、大垣
藩校から引き継がれたも
のや旧藩士の子孫から寄
贈されたもの等がありま
す。なかでも、古文書資
料は、家ごとに整理を行
い昭和48年(1973)
の第1集より『郷土資料
目録』として刊行してき
ました。

今回発行の第43集で
は、松村(現・大垣市松
町)の村役人をつとめた早
野家の資料1028点を
収録しました。

大垣市史 資料編
『藤渠漫筆』十
第三十七編～第四十編



『藤渠漫筆』は、大垣
藩医の江馬活堂によって
記された40編119冊
の随筆です。
内容は、大垣のことだ
けでなく、他地域のこと
も含めて、自然・歴史・
医療・宗教・農事・民
俗・俗諺等、多種多様な
内容が記されています。
平成27年(2015)
の第一巻から四編ずつ刊
行し、今回の十巻をもつ
て刊行が終了しました。
原文の翻刻のほか、解
説やコラムもあり、分か
りやすく説明してありま
す。

『大垣市史 通史編 近現代』
収集写真目録(5)
商工会議所所蔵分



『大垣市史 通史編 近現代』は、
『大垣市史 通史編 近現
代』を編纂する過程で収
集した市役所秘書広報課
や農林課、大垣商工会議
所所蔵の複写資料(写真)
をまとめた目録です。
第1～3巻は、秘書広
報課所蔵の弘(広)報写真
アルバム、第4巻は、同
アルバムの続きと農林課
所蔵の写真アルバムを目
録化しました。

今回の第5巻では、大
垣商工会議所の資料調査
において複写した写真を
目録化してあります。ま
た、巻末には代表的な写
真を掲載しています。

大垣よもやまコラム

ものがたり大垣城

(7) 杭瀬川の戦い

坂東 肇

慶長5年(1600)8月10日、石田三成は、大垣城へ入りました。西軍は軍勢が整わないため、大坂の総大将・毛利輝元や奉行の増田長盛に何度も出馬を催促しましたが、二人は動こうとしませんでした。その時、三成と一緒に戦える部将は、宇喜多秀家、島津義弘、小西行長、大谷吉継等

の軍勢しかいませんでした。他部将は寝返る可能性があったのです。そして、9月14日の昼、「家康が赤坂に着いた」と伝える者がいました。家康が江戸を出発したらしきことは聞いていましたが、まだ着くはずはないと思っていた三成は、慌てふためきました。それを見た三成の家臣・島左近

(清興)は言いました。「こんな時は戦をしてみんなを勇気づけることです。私が先駆けて戦をしかけます。」三成の許しをえた左近は部下を引き連れ、秀家の家臣・明石全登らとともに、岡山の東、杭瀬川の東岸に兵を進めました。戦いは西軍・三成隊と東軍・中村隊とで始まりましたが、この周辺は湿地帯であり、背の高い葎が生い茂って見通しが悪く、戦いは一進一退でした。しばらくすると、三成隊は手負いの者が増えたというこ

とで退却を始めました。勢い込んだ東軍・中村隊は、杭瀬川を越えて進撃しました。中村隊は、優勢のうちに戦いを進めたかったのです。しかし、これは左近の策略でした。負けたとみせかけて退却し、敵をおびき寄せた所で、隠しておいた伏兵により横合いから総攻撃を仕掛けたのです。中村隊は、ふいをつかれて一気に混乱しました。中村隊を指揮していた野一色頼母は、不覚にも馬の脚を泥濘にとられてしまいました。その場を動けない頼母は、必至に脱出しようとしたがとうとう討たれてしまいました。

その状況を見た家康は、本多忠勝に兵の引き揚げの手助けをするように命じました。忠勝の俊敏な指揮のもと兵は引き揚げ、杭瀬川の戦いは終わりました。この戦いは、関ヶ原合戦の前哨戦とはいえ、西軍の大勝利でした。三成は、大垣城東の遮那院近くで首実検をしたといわれています。(内容は「関ヶ原合戦当日記」を参考にしました。)(次号へ続く)



岡山(赤坂町)

大垣「水」紀行(1)

大垣市は、昭和初期頃から「水の都」といわれているように、地下水に恵まれた地域です。

大垣「水」紀行では、大垣と水に関わる話題を紹介していきます。

大垣市は全国でも有数の自噴地帯に位置しており、豊富な地下水の恵みにより各地に自噴水があります。大垣市HPの「わくわく湧水マップ」によると、26ヶ所の湧水スポットが紹介されています。

事例簿

【問い合わせ】岐阜町のこんにやくや文七の掘り抜き井戸について知りたい。

【回答】大垣市発行『大垣市史通史編 自然・原始く近世』【郷土23(三六)】によると「掘り抜き井戸」の由来が記されています。天明2年(1782)頃、岐阜町の麹屋文七が、川の近くに深さ5〜6尺(約1.5〜1.8m)の大きな穴を掘り、7〜8寸(約21〜24cm)の太さの竹

に「ゴマ尻」を入れて、上から掛矢(木製の大きな木づち)で打ち込み、その竹の中を細い竹でついたところ、水が湧くところと、そうでないところがありました。さらに工夫を重ねて、竹の代わりに3〜4間(約6〜8m)ぐらいの鉄棒2、3本を繋いだところ井戸が掘れるようになったことが書かれています。また、『水とおおがき』【郷土23(三六)】の「井戸水」にも「こんにやく屋文七」の記載があります。

【問い合わせ】図書館前の公園にある淡墨桜はいつ植えられたのか?

【回答】「淡墨桜 大垣」のキーワードで検索すると「ス

イトピアセンター情報紙」の『イトピアドロップス』平成30年(2018)96号の記事に掲載されています。その記事によると、平成4年(1992)2月に植樹されたとあります。

この記述をもとに、当時の『広報おおがき』を調べたところ、平成4年(1992)3月15日号の記事に掲載されており、同年2月26日に本巣郡根尾村より大垣市へ交流のあかしとして、淡墨桜の2世木が寄贈、植樹されたことがわかります。

大垣を深めよ!

Gaki Quiz

私はだれでしょう。

ヒント①
私は、安政4年(1857)に京都で誕生しました。

ヒント②
私は、鹿鳴館の華といわれたことがあります。

ヒント③
私は夫と共にオーストリアウィーンに滞在中、作曲家のブラームスと交流しました。

第7号(冬号)の解答
「小原鉄心」

小原鉄心は、文化14年(1817)11月3日、代々城代を務めた小原家に生まれました。天保13年(1842)に家督を相続し、大垣藩の財政・軍制改革を進めました。鳥羽・伏見の戦いの際には、藩主と重臣を説得し、揺れ動く藩の方針を新政府に味方することに決めました。

また、酒と梅を愛した文化人でもあり、多くの志士、学者、詩人らと詩を詠み、天下国家を論じました。